

双葉町と東日本大震災・原子力災害伝承館についての追記 [2021.3.25. 編集]

福島県は24日、東京電力福島第一原発事故を後世に伝える、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）で、町内に掲げられていた「原子力 明るい未来の エネルギー」の看板の展示を始めた。看板は原発事故後、安全神話への皮肉として注目されたが老朽化を理由に撤去。標語の考案者らは、町の「負の遺産」として実物を展示するよう求めていた。

縦約2m、横約16mの看板は1階屋外のテラスに展示。文字盤をはめ込んでいた看板の本体部分は腐食が激しかったため新調した。

1987年、双葉町の小学6年だった大沼勇治さん(45)＝茨城県古河市＝が学

原発推進の遺産展示

校の宿題で標語を考案した。昨年9月にオープンした伝承館ではこれまで、看板を写したパネルが展示されていた。この日伝承館を訪れた大沼さんは「原子力を推進してきた歴史を残せた。かつて双葉町が原子力と共に歩み、全町民が避難した町であったことを多くの人に知ってもらいたい」と話した。



福島・双葉の伝承館



①「原子力 明るい未来の エネルギー」の看板の展示準備をする東日本大震災・原子力災害伝承館の職員
②展示が始まった看板。手前右は被災した消防車＝いずれも24日午前、福島県双葉町で

3月24日付け東京新聞夕刊の記事



東日本大震災・原子力災害伝承館の外観 (2021.3.9.撮影)





浜から双葉駅へ向かう方向の標語



双葉駅から浜へ向かう方向の標語

先日、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問したところ、偶々休館日のため、中を見せて頂くことは叶わなかった。昨日の東京新聞夕刊に前頁の記事が掲載されていたので、ここに転載させて頂きたい。双葉町を訪問した時に、地元の方に有名な標語『原子力明るい未来のエネルギー』が設置されていた場所を尋ねたところ、駅前の交差点とのことで、正確な場所までは判らなかった。そこで“グーグルストリート”を用いて探索することを思いついた。航空写真はごく最近のものであったが、幸いにもストリートの写真は2013年7月に撮影されたもので、建物の被災状況も殆ど震災当時の姿で残されていた。



Google map を利用させて頂きました



JR双葉駅



双葉駅前



双葉駅前通り



双葉駅前商店街



JR双葉駅とその周辺

2013年7月(上)と2021年3月(下)との比較から